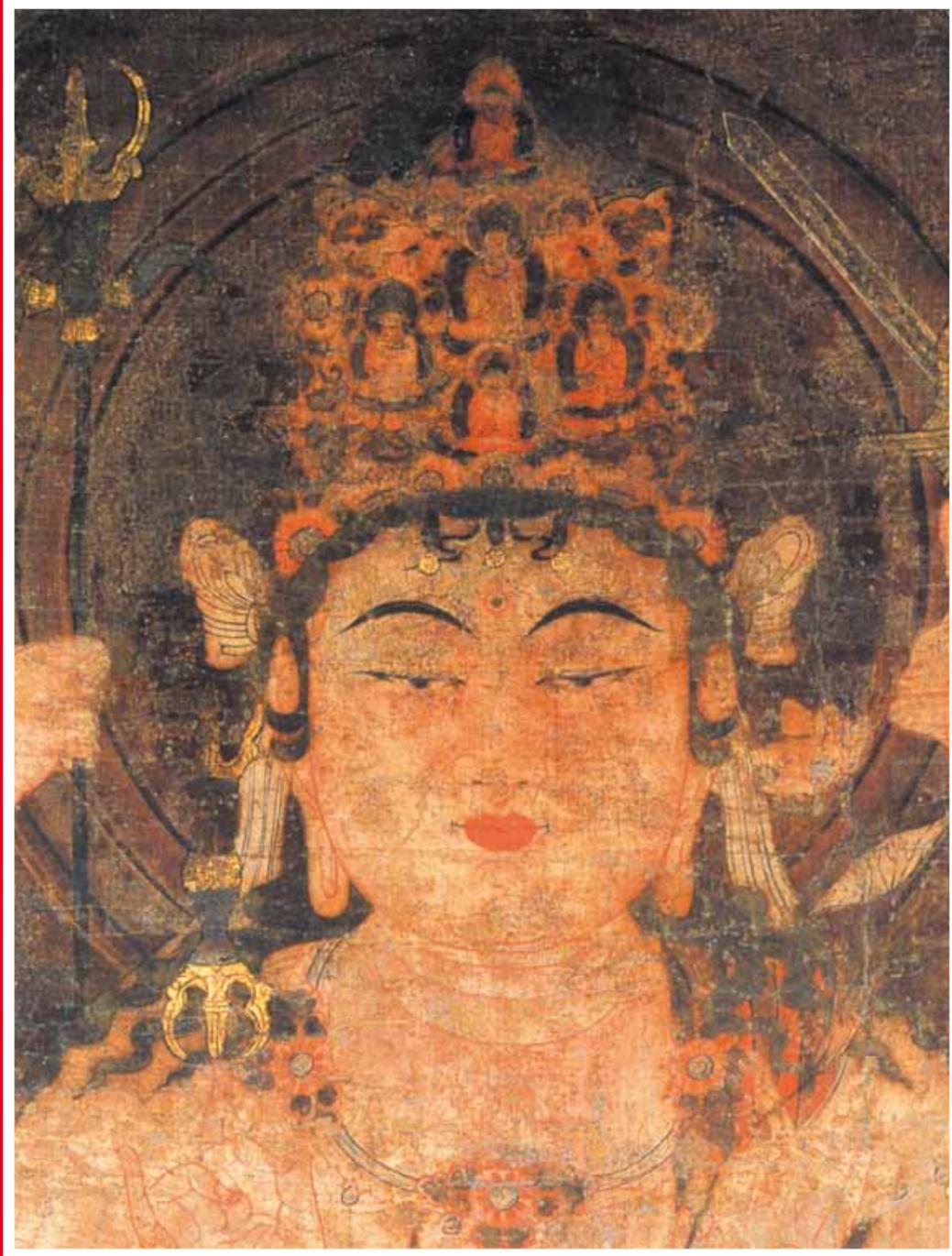


柳澤孝 仏教絵画史論集



普賢延命菩薩像(部分) 持光寺



大仏頂曼荼羅 奈良国立博物館

柳澤孝 仏教絵画史論集

やなぎさわ たか

体裁 B5判上製函入 本文668頁 口絵24頁
定価 36,750円(本体35,000円+税)
ISBN4-8055-0524-9 C3071

2006年5月刊

本書をお薦めする方々

美学・美術史研究者・研究室／中世
史・仏教学研究／美術館・博物館
学芸員／画廊、古美術商／画家／寺
院関係者／大学・公共図書館／



中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7

電話 03 (3561) 5993 FAX 03 (3561) 5834

お取り扱い

中央公論美術出版

東京文化財研究所の名譽研究員であった故柳澤孝女史は、永年にわたって日本仏教絵画史研究に携わり、網羅的かつ綿密な作品調査を行い、それらの成果をもとに多くの著書・論文をあらわしている。

研究は故人が定年時まで所属した東京文化財研究所の前身である東京国立文化財研究所美術部を拠点にして活動し、X線透過撮影、赤外線撮影、双眼実体顕微鏡などの光学的・科学的手法を積極的に用い、それまで解明が困難であった絵画の顔料の種類、描法を明らかにし仏画研究の手法を開拓するとともに、調査・研究の手法は、今日の東京文化財研究所のプロジェクト研究へと繋がってゆくものでもあった。しかも、故人の研究成果は単に一研究所の枠内に留まらず、斯界の仏画研究そのものの水準を飛躍的に引き上げるようになったことは周知の通りである。

その成果として発表された論文が歳月とともに入手困難になりつつある現実をかんがみ、これまでの研究成果を一冊の論集としてまとめることとなった。

もとより生前に故人が発表した論文の数は膨大であり、すべてを一冊の論集にまとめることは容量的にみても不可能である。また、発表された論文は半世紀にわたるため、歳月の経過とともに所蔵変更がなされたものも少なくなく、再録にあたっては誤字・誤植等の訂正、あるいは、論文間での整合性をはかるべく、引用史料や挿図の名称等の表記統一を行う必要性が認められ、刊行のための委員会を編成した。そして、論集に収録する論文は、今後ますます入手困難になるであろう雑誌・図録ならびに報告書類に発表されたものを中心に選定し収録する基本方針を固め、論集の名称を『柳澤孝仏教絵画史論集』として編集作業を着手した。その編集に際して、収録論文の挿図は、初出時のものを極力活かすべく、蔵書類とともに東京文化財研究所に一括移管された故人架蔵の写真資料等から当該の挿図類を博搜して用いるよう努めた。ただし、不鮮明な写真については適宜良好なものに差し替えるようにした。

かくして、ここに『柳澤孝仏教絵画史論集』が日の目をみることになった。本論集がこれからの仏画研究の発展に少なからず寄与することを切に望むものである。

柳澤孝 仏教絵画史論集刊行委員会



目次

第一部

- 藤田美術館の密教両部大経感得図に就いて
- 大和永久寺真言堂障子絵と藤田本密教両部大経感得図―その製作年代と作家―
- 真言八祖行状図と廢寺永久寺真言堂障子絵(一)
- 真言八祖行状図と廢寺永久寺真言堂障子絵(二)
- 真言八祖行状図と廢寺永久寺真言堂障子絵(三)
- 真言八祖行状図と廢寺永久寺真言堂障子絵(四)
- 真言八祖行状図と廢寺永久寺真言堂障子絵(五)
- ボストン美術館蔵の四天王図―新発見の廢寺永久寺真言堂障子絵―
- 永久寺亮恵上人画像
- 永久寺真言堂障子絵色紙形下より出現の鷹図について

第二部

- 東寺の両界曼荼羅図一甲本(建久本)と西院本一
- 文保元年の軸銘ある新出両界曼荼羅図
- 青蓮院伝来の白描金剛界曼荼羅諸尊図様
- 阿弥陀曼荼羅図
- 一字入金輪曼荼羅図について―その図像学的並びに遺品の美術史的考察―
- 日野原家本 大仏頂曼荼羅について
- 転法輪筒とその絵画
- 称名寺金堂壁画考
- 富貴寺大堂仏後壁背面の千手観音図について
- 十一面観音像
- 藤原時代普賢菩薩絵像の一遺例
- 益田家旧蔵の普賢菩薩絵像について
- 文化庁保管 普賢菩薩絵像
- 仁平三年銘の持光寺蔵普賢延命菩薩絵像
- 異色ある孔雀明王画像
- 仁和寺蔵宝珠宮納入の板絵四天王像について
- 青蓮院旧蔵の立像十二天図について
- 定智筆善女竜王像をめぐる資料
- 松尾寺所蔵の終南山曼荼羅について―唐本北斗曼荼羅の一異図―
- 道教の星曼荼羅
- 岡寺本尊光背の板絵飛天について
- 慈尊院弥勒仏像台座蓮弁の装飾文様
- A STUDY OF THE PAINTING STYLE OF THE RYOKAI MANDALA AT THE SA I JIN TO JI
: With Special Emphasis on their Relationship to Late Tang Painting
- 初出一覧
- 著作目録
- 略歴
- 編者後記

著者略歴

柳澤 孝(やなぎさわ たか)

大正15年1月16日、長野県上田市上田6500番地に生まれる。昭和20年9月、日本女子大学国文科を卒業するとともに同21年3月には同大学補修科を修了。その後、日本美術史とくに絵画史の研究のために美術研究所(現在の独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所の前身)において文部技官・秋山光和の指導を受け、同年9月、美術研究所雇となる。昭和34年9月1日、文部技官に任官。昭和47年7月1日に東京国立文化財研究所美術部主任研究官に、昭和57年4月1日、同美術部第一研究室長に昇任。昭和59年4月1日、美術部長に就任。昭和62年3月、定年退職する。この間、『醍醐寺五重塔の壁画』(高田修編、高田修・上野アキ・宮次男・山崎一雄・伊東卓治と共著、吉川弘文館、1959年)の成果により昭和35年(1960)に日本学士院恩賜賞を受賞。また、研究所在職中から非常勤講師として東京大学文学部、同大学東洋文化研究所、慶應義塾大学文学部、学習院大学、東京藝術大学へ出講、平成15年9月6日永眠、享年77歳。